

■Advanced COSA(5)に参加した理由（複数回答可）

- 働いている人の生の声を実際に聞いてみたかったので。
- 単位をとるため。
- 博士の実態を知りたいと思った。
- 他（多）分野の話を知りたいため。
- 理学院共通科目でとりやすい時期にあるため
- 共通科目だったから。
- 就職に対する意識を高めるため。

■今後、講演会 Advanced COSA で講演してほしい企業の業種を教えてください  
（複数回答可）

- 国家公務員、国立研究所
- 宇宙開発
- 航空、宇宙、コンサルティング
- 防災関係の会社
- 公的研究機関（理研、産総研）
- 教育出版
- 畜産
- 宇宙産業

■全体を通して、Advanced COSA(5)についての感想・今後の要望（自由にご記入下さい）

- 1つの講演にかかる時間長いと思う。講師の人数をもう少し増やして、1人あたりの時間ももう少し短い方が、色々な分野の話を知りたいと思う。もっと若手の方の話も聞きたいです。
- 一応単位に関わる授業なのだから、もう少し参加学生の管理をした方が良くと思います。出席も取らず、さらに授業をほとんど聞かなくても書けるようなレポートでは、学生の参加率、態度ともに低下していきただけに思われます。現に周りで本を読んでいる人、データ解析している人、途中で帰る人などが多々いましたし…。話をして下さる方にも非常に失礼にあたると思うので、もう少し参加者が真面目に取り組むようなシステムにした方が良くと思います。

- 化学や生物分野に偏っていたので自分の志望する企業分野とは違っていた。視野を広げる ためにはいい機会であったが、自分の志望分野が1つは欲しかった。
- 懇親会が非常に楽しかったです。企業の研究者の方々に直接はつを聞けるチャンスなので どんどん学生が参加した方が良いと思いました。学生として企業の人達と話せる数少ない チャンスだと感じました。
- 自分の研究分野に近い先生のお話はかなり理解できたが、少し分野が違くと専門的な話は 理解が難しかった。いきなり略語等が出てくると難しいので、一言、二言初心者でも少し わかるように説明があるとさらに興味をもててよいと思う。実的なものに近い研究を 大学院でやっている博士の人は企業でも活躍できそうだが、基礎研究をやっていて何が できるかもっと考えてみようと思った。
- 懇談会に多くの人に参加して（宣伝して）もっと盛り上がると思う。
- 様々な企業の方々の研究者として、会社の一員として、幅広い話を拝聴できて満足の2日間 でした。私は農学院なので化学系の話はよくわからなかったのですが、研究姿勢や研究者に 求められるもの、モチベーションはどんな研究をしても変わらないものだと実感しました。 農学系、または機械系（エンジニア）の方のお話も聞いてみたかったです。私は院生ですが、 研究者になることはあまり考えていません。そんな私でも研究に対して意欲がわくような刺激的 な時間を過ごせました。迷いがあってもとりあえず動くことが大事だなと感じられる、研究して いることに自身をもとう、頑張ろうと思えることができました。農学部でもバイオ産業創生学という選択必修科目があり、科学者としてのビジネスについての講義があるのですが、大学側から のこのような働きかけに対して積極的に取り組むことが求められているのだと実感しました。
- ひとりひとりの時間をもう少し短くして、もっと多くの人のお話をききたいです。
- 基本的に大学の研究と企業の研究に大きな隔たりはないと感じた。要は興味、熱意の問題だと感じた。
- あまりに自分の専攻と離れた専門的な内容が2時間続くと、なかなか興味を持てなくなってしまう。 企業紹介、企業全体での研究事例（分野をまたがって）をいくつか紹介、自身の研究紹介の3つくらいが 同程度のバランスで聞ければ嬉しいです。あとは、業界の現在、未来のようなお話も興味深いです。
- 質疑応答を重視しようという方針は、それはそれで良いと思うのですが、それはそれで通常の講義とは 異なった“場”を設定する必要があると思います。座談形式としたり、別途インタビュアーを設定したり、できることは多いでしょう。大学院生たるもの、いかなる条件でも発言できねばイカンと言うのも正論ではありますが、それができればそもそもこうした事業が必要になることもなかったわけです。大学院生 にも朝のミーティング、実験、事務作業などどうしても抜けられない役割を持

っている場合があるので、朝一での開始だと間に合わないこともあるでしょうから、少し遅らせた方が良くかもしれません。

- このようすばらしい会を設けていただきどうもありがとうございました。講演内容に関しては、研究紹介に合わせてこのような研究をしているので、このような人材が欲しいといったこともお聞きできたら、さらに良かったと思います。
- 各講師のパワーポイントの資料を印刷して配布して欲しい。神原秀記（日立）さんの話が最も良かった。会社の概要を general に話すよりも、自分でつくった研究、制度を詳細に話してくれる方が良い。メーカー以外の企業も聞きたい。転職経験のある人。
- 実際に企業で研究している方の話が聞いて大変参考になりました。今回は化学系の方が多と感じたので、もう少し生物寄りの方、あるいは生物から多分野へ進んだ方の話が聞いてみたいです。
- 企業での研究について聞くことはあまりないので貴重な時間だった。主な対象が企業で働く意識のある PD、DC だったので、大学や研究機関でアカデミックな道に進みたいと思っている人にとっては、意識の違いがあると思った。
- 異分野の人にはとても分かりづらい話でした。
- けっこう答えづらい質問（給料や出世など）にもちゃんと答えているのが意外だった。
- 地球物理関係の内容もあれば良いなと思った。内容が生物系に偏っている気がしません。
- 企業の研究について色々を知ることができて大変ためになりました。自分が企業について何も知らなかったという事もわかりました。そのためか、講義の中で講演者や辻井先生だけの間で話が盛り上がっていると疎外感を覚えました。S-cubic や企業の働きかけも重要ですが、一番ネックになるのは学生自身の活動であると感じました。Advanced COSA でも学生に知識を広げる努力をうながすようなころができればと思います。
- 数学科の学生なので、化学系の話は全然分かりませんでした。違う分野で今まで全く興味の無かった会社の話を聞くことは、視野を広げる良い機会だったと思いました。今後の要望は、普段あまり関わる ことのない分野の会社の話を聞きたいです。
- 仕方が無いことなのかもしれませんが、講演していただいた方々の研究内容が、どうしても物理や化学系に偏ってしまっているように感じました。DNA シーケンサーの話など生物系に関係ある内容もありましたが、それも物理学を生物学研究に応用したもので、メインは物理学の研究ではないかと思います。もう少し、生物系をメインにすえた研究についてもご紹介いただくと、生物系の学生としてはうれしいです。

- 企業の研究体制を詳しく知ることができ、企業での研究者のあり方を具体的に知ることができてよかった。また、企業がどのような人材を求めているかを最も知りたかったので、その点で多く情報を得ることができてよかった。
- 講演の時間は丁度よいと思うのですが、質疑応答の時間が長いと思いました。出欠の方法について明確にしてほしい。
- 総じて「会社の説明」が長く退屈だった。会社の事業者の説明は 30 分以内にまとめ、その分を DC、PD に 関する活動、期待等の説明や質疑応答に回して欲しい。
- パワポを配布物として刷ってほしい。
- Basic COSA の時と違って、ポスターがそれなりに貼ってあったように思われたので、今後も広く宣伝して ほしい。今後は博士の就職も増えると思うので、それを考えている人がより多く参加するような形態が 必要。
- 可能ならば、レジュメを配布して頂けるとうれしい。スライドが見やすいように教室をもう少し暗くして 欲しい。複数の人の話がきけておもしろかった。
- 講演時間を短くしてほしい。集中が続かないし軸がぼやける。
- 自分は数学に所属していますが、 1 日目の講義を聞いても結局どんな研究をすれば良いかがわかりません でした。具体的に数学に所属している学生がどのような研究にたずさわっているのか等がしりたかったです。講演して下さった方が、企業の紹介に来ている感じがして自分の意欲につながる内容ではありません でした。もっと現場の“生”の音が聞ければ良かったと感じています。
- シラバス（全学共通用の）に S-cubic の HP アドレスなどをのせてくれるとありがたいです。どういう講師 の方がいらっしゃるのかなど、シラバスの情報量が少なく感じました。
- 大学は閉鎖的な環境であると感じることが多い中で、外の環境におられる方々をお招きして講演をして いただくということは、まさに視野を広げることになったことであると思います。非常によい お話を聞かせていただけたと思っています。
- 企業の方が親切に説明していただいたので、今後の自分のキャリアパスを考える上で大変参考になりました。
- 学生が静かすぎるのが気になります。（質問が少ない）懇談会の参加費を安くして下さい。大学院共通 科目であるにもかかわらず、開始時間等のアナウンスが医学研究科には見当たらなかった。そのため 8:45 に来てしまった。企業の人を呼んで講演を頂いているのに、遅刻する学生がいるというのはどう なのか？
- 内容は興味深かったが、自分の専門とは離れていたため残念だった。
- 今後の就職活動をする上で、役に立つ情報でしたし、企業の方々がどのような人材を求めているのか わかりました。でも、あくまで博士課程に進んだ方への説明も多く、修士である人にはすべてがあて はまらないのかもしれない。なので、修士向

けのこういった機会があるともっと色々な方々が興味を もつのだろうし、私自身もとても興味がわくのだと思います。

- 今回のように2日間（1日にお二人ずつ）なら、ベテランの方と若手の方をお二人ずつの方が良かった なあと思いました。DC、PD の立場としては、入社して実際どのようなことが出来るのかが気になるの で、できるだけ今現場にいる方のお話を聞いてみたいです。
- シラバスの内容からは、もっと就職活動に直接フィードバックされる内容（例えば人事に携わっている方 の同席など）だと勝手に感じていたので、少し期待はずれでした。長年企業内で研究を行ってきた方の 研究内容や人生を聴く機会は他の学内団体の企画や大学院講義でかなりあるので、この内容のまま続ける のであれば、修士課程向けの講義として新しく立ち上げる意味はないのではないかと思いました。
- 講義内容は会社の研究開発についてわかってよかったが、研究のおもしろみが伝わってこなかった。他の 授業でも企業からの人が来て話をしてもらったが、成功例や仕事の楽しみ方も話してくれる人もいて、 そのような話を期待していたので、少し残念だった。
- もう少し多くの企業の人を呼んで、一人一人の時間を短くし、より多くの企業について知りたいと思 いました。
- 専門的な話になってしまうのは仕方がないとは思いますが、あまり専門的になりすぎるとついていけない 人が出てくるので、皆が理解できるような内容にして頂けると助かります。
- ほぼ企業の説明と研究内容しかなく、博士課程に関与することがなかったように感じたので、期待外れ だった。今回の講義内容では他の授業の企業講義でも聞けると思う。講師の方たちは博士卒だったのだ ろうか。その辺りの歴史も含めた話をききたかった。あと休憩なしで2時間はキツイ、先生も大変だと思 った。
- 非常に興味深い話ばかりで、企業に就職することを第1希望に考えている私にとっては大変為になりました。やはり研究長クラスの話が聞けるのは非常にありがたい事で、大変有意義な時間を過ごすこと ができました。
- 博士の情報はあったが修士の情報が少ない。
- 会社紹介の時間（最初の1時間）が長いように感じた。大学院の授業として開講した場合、受講者層が DC から MC（特に M1）にシフトすると思うので、それに合った授業になればと感じた。
- 講師の先生方から、今後の自分の研究の進め方、就職活動に関するヒントを数多く頂くことができた。 企業における自分の将来像をつかむにあたり、この講義は有意義なものでした。
- 企業の考え方と大学等の研究機関との考え方の違いや研究を行う目的の方向性についての違いも大きく 有る事を知りました。

- 細かい研究内容はその分野の人しかよく分からないので、もっと全体に共通する話をしてほしい。その分、もっと多くの企業の方のお話をききたい。女性の話もききたい。私達はまだどんな仕事、研究があるのかよく分かっていないので、いろいろな仕事があることを知りたい。自分が将来どんな仕事をしたいかに結びつくようなお話をしてほしい。
- 財源の問題もありますが、もっと少数の人数を選んで合宿形式のようなものに出れないか。せっかく世界に冠たる民間企業をささえる研究者のはなしを聞く機会なのに、学生側がそれをそしゃくしきれていない感があった。もっと教員側の参加があってもよい（大学の教員の勉強にもなる）。民間企業と大学が求める人材に基本的な差があるとは思わないが、両者に対して社会が求める役割はあきらかに違う。大学教員として大学にいることはどういう社会的意識があるのかを考える上でもよい機会だと思う。

#### ■その他、S-cubic 事業へのご意見・ご要望（自由にご記入ください）

- 博士課程の学生向けであるが、修士課程の学生向けの就職活動（対象となる範囲が急に広がるが）を応援してくださる組織（別でも、兼任でも）があればよいと思う。
- 農学部にも目立った宣伝がありませんでした。もったいないと思います。私は単位をと思ってこちらの講義をうけたので、こんなに力の入っている講義だと思っていたので。もっと興味がある方は多いと思います。
- 博士卒業後の選択肢についてもっと知りたい。海外に行くという選択肢が具体的にどういうことなのかなど。あと企業に行く際に知っておいた方がよいことなどを教えて欲しい。
- 今回のセミナーで、初めて S-cubic 事業のことを知ったので、参加して良かったです。今後、ぜひ参加させていただきたいと思います。
- この講義を院の必修選択に組み込む or 大学院共通科目・他学部の講義を卒業要件に組み込める単位枠を増やして欲しい。
- 私はこの Advanced COSA (5) で初めて S-cubic 事業を知り、それ以前までは正直覚えておらず、影がうすい気がします。
- 博士セミナーのような、学生が企業と交われる機会を盛んに企画して頂きたいです。話を聞くこともそうですが、実際に手で触れてみるのが重要だと思います。学生や教員の意識を変えるような取り組みがあれば良いと思います。実際に博士になってから大学や研究室を変えるのは大変だと感じますが、そして S-cubic の活動の範囲を大きく越えることになるかもしれませんが、大学院の教育体制を変えることが必要だと思います。
- 自分と比較的近い年齢の方の話を聞くことができよかったです。

- いつも企業への研究についてご紹介いただいておりますが、研究職以外にも科学知識を活かすことができる仕事があると思います。サイエンスコミュニケーター、科学技術の翻訳家、サイエンス記事を書くライターなどもサイエンスの知識を活かせる職業だと思います。そのような研究職以外の専門職で活躍されている方のお話も聞くことができれば視野を広げる上で参考になると思います。
- 博士課程後の進路選択で企業就職を考えたときに、企業就職することへの意義を自分の中で考える助けになる。多くの情報を提供してもらえるので、アカデミックや企業のどちらかへ偏ることなく考える機会が多く、感謝しています。
- 今年度で赤い糸が終わってしまうと聞き、とても残念です。講義 (Advanced COSA) は何とかして続けてほしいと思いました。
- アバンギャルドなインターンなどがあればおもしろいかと。企業研究で使う実験技術を教えてもらおうか。ベンチャー企業でのインターンも珍しいかも。明るい話だけでなく、失敗した話を聞きたい。
- 機会を増やしてほしい。
- この事業については良くわかりません。認知されていない感じがします。企業との“お見合い”と言っていました。具体的な事例を挙げていただければ、講義ももう少し絞って聞くことができるのではないのでしょうか。
- 私は農学部学生ですが、周りの DC、PD の人たちは S-cubic の活動をおそらく知らないと思います。例えばメーリングリストなどで情報を発信されるともっと多くの人にとって役に立つのではないかと感じました。(もう実行されていたらすみません)
- 金銭的援助、講演内容等は十分だと思います。しかし、S-cubic 事業の概念が、専攻、教員に十分に浸透していないような気がします。専攻と企業が協力したプログラム作りが進めば、企業研究について考える学生が増えるのではないかと思います。
- S-cubic 事業は理学院だけのものなのでしょうか？他研究科、研究院での認知度は低いと思います。文科省の資金が切れた後も続けて欲しい。
- 自分が動物の行動生態を調べているので、民間の調査、自然調査 (シンクタンクではなくて) 会社の方のお話を聞いたり、募集の有無を知りたいです。
- 博士課程の学生の企業へのサポートを行うのはとてもすばらしく、学生にとってもありがたいことだと思います。ですが、修士になってからはじめて S-cubic の事業を知りました。学部生に対しても、こういったサポートがあることを多少でも知らせておくと、長期的なスパンでの人生設計を考える機会になるだろうなと思いました。
- S-cubic 事業は博士を卒業した後の就職支援をしており、難しい状態を改善しようとしていて良いと思った。
- 修士にも赤い糸会の様なものがあれば嬉しいです。

- 一人あたりが長い。人数を増やして短くしてほしい。
- 博士課程の学生の活躍の場をより広く社会に求めていくためには、大学の教員が変わることが大事。現在大学に職を得ている研究者は博士号取得者の活用、問題についてあまりにも他人面である。税金をつかってそだてた人材をやっかい者の様にとりあつかうのはおかしい(教員側の教育が悪いから 世に活用出来なくなっているのかも知れないのに)。もっと大学教員をとりこんだかたちでの S-cubic 事業へと発展することを望んでいます。個人的な経験として、民間企業の研究者と交流して、大学研究者 に優るともおとらない知的好奇心と話題に富む人材が多いことを知った。このような人材を講師として 通年の講義に出来ればとても有意義だと思う。